MIYAGI みやぎ県政だより

2022 11・12 月号

ページ

新・宮城の将来ビジョンシリーズ
2 PROGRESS ～ともに創ろう、躍進する宮城の未来～ 宮城県涌谷高等学校

特集1
4 地震・津波に備えましょう 11月5日は「津波防災の日」「世界津波の日」です

特集2
6 地域がつくる子どもの居場所 「子ども食堂」などの取り組み

県政ニュース
8 宮城県は誕生150周年を迎えました

県政ニュース
10 みやぎ環境税 みやぎの豊かな環境を守り、次の世代へ引き継いでいこう

県政ニュース
12 ひきこもりを正しく理解しよう

県政ニュース
14 循環器病を予防しましょう 宮城県循環器病対策推進計画を策定しました

15 おいしいものがたくさん! まんぷくみやぎ

16 7つの地域から虹メール

18 お出かけガイド

20 みやぎのふるさと通信（名取市・登米市）

21 県立施設インフォメーション

22 仙台育英学園高等学校 優勝おめでとう 感動をありがとう

23 新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

24 県からのお知らせ

みやぎの人口（令和4年8月末現在）

住民基本台帳人口	2,262,431人	世帯数	1,035,283世帯
男	1,103,156人	※うち、外国人住民基本台帳人口は23,345人です。	
女	1,159,275人		

今号の表紙

仙台育英学園高等学校硬式野球部

厳しい練習を共にし、部員全員で勝ち取った栄冠。選手一人一人の達成感に満ちあふれた表情を収めた1枚です。練習試合前の慌ただしいひとときでしたが、初対面の私たちにも爽やかにあいさつをしてくれました。撮影後はさっそうとユニフォームに着替え、練習に励んでいた選手たち。はつらつとした姿に、懐かしい青春を思い出しました。

仙台・宮城観光PRキャラクター むすび丸

新・宮城の将来ビジョン シリーズ

PROGRESS

ともに創ろう、躍進する宮城の未来

第9回

地域と連携した学校防災体制の強化

宮城県涌谷高等学校

令和3年度に、県政運営の基本指針となる「新・宮城の将来ビジョン」（以下「新ビジョン」）がスタートしました。

本シリーズでは、新ビジョンの理念である「富県躍進」を目指し、政策を推進するための重要な視点である「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、各分野で魅力ある活動に取り組む県内の企業・団体などを紹介します。

【写真の説明】1 被災地訪問学習　2 災害図上訓練DIG　3 4 避難所運営ワークショップ
5 6 涌谷町内のボランティア活動の様子

今回は、地域と連携した先進的な学校防災体制の構築に取り組む宮城県涌谷高等学校の津守大智先生（防災主任）にお話を伺いました。

― 学校防災で重視していることは？

大川小学校事故判決や、学校防災体制在り方検討会議の意見を踏まえ、教職員と生徒が、命を守る判断力と行動力を地域ぐるみで育成し、いかなる災害にあっても生徒の命を確実に守れるように、防災体制の強化に取り組んでいます。

本校は、河川沿いに位置し、水害の危険に備える必要があり、涌谷町の指定緊急避難場所になっています。また、町内の全学校で合同訓練を実施するなど学校間の連携が取れているほか、町のお祭りなどの行事にも頻繁に参加するなど、地域とのつながりが強く、地域一体の防災体制づくりにも非常に力を入れています。

― 先進的な取り組みは？

地域の方と共に学び合う

令和3年度から新たに本校の生徒は、被災地訪問学習や定期的な防災訓練のほか、地域の方や町役場の方を交えて災害図上訓練DIG（ディグ）や避難所運営ワークショップなどを行っています。

DIGとは、Disaster（災害）・Imagination（想像力）・Game（ゲーム）の頭文字から命名された、ゲーム感覚で地域の防災対策や災害時の対応を考える訓練です。生徒は、地域の方と共に学び合うことで、過去の災害経験を基に危険な場所を教えてもらうことができ、涌谷町の災害特性について、さらに理解が深まりました。

避難所運営ワークショップは、災害時の避難所運営を想定した訓練です。運営に大事なことは何か、自分たちは何をすべきか、など避難所運営の経験者からのお話を参考に、ただ教わるだけではなく、避難所でどのようなことができるかを、生徒自らが主体的に考えることができました。

11月に、本校で涌谷町主催の総合防災訓練を実施します。地域の方や防災関係機関などをはじめ、本校有志生徒約30人も参加し、より実践的な災害対応力の向上を目指します。

教職員の防災意識を高める取り組み

年度初めに教職員を対象とした防災研修を実施しました。学校防災マニュアルの読み合わせ、町役場の方から過去の災害状況の説明、町や学校の備蓄庫の確認などをこれまで以上に重点的に実施することで、教職員の防災意識や災害時の対応力を高めることにつながりました。

― 日頃から意識していることは？

本校の生徒は、積極的に涌谷町内でのイベントやボランティア活動に参加しています。

今年は、涌谷町で開催されたイベントスタッフのボランティアをはじめ、涌谷町内の集会所やバス停などに設置するベンチを作るボランティアなどに参加しました。

こうした活動に参加することは、一見、防災には関係ないように見えるかもしれません。しかし、日頃から地域の方々と顔の見える関係を築き、つながりを強くすることで災害時の連携に役立つと考えています。

― 今後の展望は？

地域と共に学校防災体制をつくることは、災害などの逆境にも負けない地域づくりにつながると考えています。それをつくっていくのはこれからの若い世代であり、そのために大事なのが学校での防災教育です。教育を受けた生徒が、将来、地域に根付き、また次の世代へとつないでいくことによって、住み続けられる町になるのではないでしょうか。そのためにも、これらの活動をしっかり続けていきたいです。

宮城県涌谷高等学校
数学科・防災主任
津守 大智　先生

知事コラム

村井が走る

宮城の山を守る

太陽光、風、水、地熱などの自然現象から得られる自然エネルギーだけでなく、動植物から生まれるバイオマスエネルギーや廃棄物エネルギーなどを全て含んで再生可能エネルギーと呼びます。地球温暖化問題に端を発して再生可能エネルギーの普及がにわかにクローズアップされるようになりました。最近の異常気象を考えると当然のことでしょう。しかし、一方で二酸化炭素の吸収源をいかに守り育てるかという課題も避けて通れません。現在、宮城県では山林で風力発電を行いたいと環境アセスメントで手続き中の風車が300基以上、また太陽光発電も200ヘクタール以上あります。風力発電や太陽光発電は平野部でも実現可能な中、あえて二酸化炭素を吸収する役割を持つ山林で事業を拡張することに私は疑問を感じます。さらに、数十年後に事業者が不在になってしまい、古くなった設備がそのまま山林に放置される可能性に強い危機感を覚えます。そこでこのたび、山林で再生可能エネルギー事業を行おうとする事業者に課す新税を検討することにしました。これは、東京都豊島区がワンルームマンションの増え過ぎを防ぐためにワンルームマンションにだけ増税していることにヒントを得たものです。市町村とも協議し、早急に条例化をしたいと思います。これまで先人たちが大切に守ってきた自然を残すことは今を生きる私たちの使命です。どうすれば総合的に宮城の環境を守れるかということに力点を置いて行動したいと思います。

宮城県知事 村井嘉浩